

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan
TEL : 03-3714-0552 FAX: 03-3714-2571 E-mail: info@artphoto-site.com

報道各位

平成28年7月吉日

トミオ・セイケ 写真展 「Liverpool 1981」

(リヴァプール 1981)

2016年 9月7日(水)～ 10月13日(木)

1:00PM～6:00PM/ 休廊 日・月曜日 / 入場無料

ブリッツ・ギャラリー

〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-20-29 TEL 03-3714-0552

JR目黒駅からバス、目黒消防署下車徒歩3分 / 東急東横線学芸大学下車徒歩15分

このたびブリッツ・ギャラリーは、欧米のアート写真シーンで活躍中の写真家トミオ・セイケの写真展「Liverpool 1981(リヴァプール 1981)」を開催します。リヴァプールは英国イングランド北西部マージーサイド州の中心都市。ザ・ビートルズの出身地としても知られています。かつて貿易や工業都市として発展したこの町は、第2次大戦による疲弊と1950年代の不況で急速に斜陽化していきます。その後も失業者は増加の一途をたどり、1980年代の失業率は英国国内最悪でした。人口流出が進み、街はコミュニティーの崩壊とスラム化が進行。数多くの社会問題を抱えた都市になっていました。1979年にサッチャー政権が発足、国営企業の民営化・規制緩和、福祉制度の見直し、労働組合に対する対決姿勢などがとり入れられます。その後、英国経済は活性化して、リヴァプールも復活していきます。

1981年、セイケは経済的に最悪期のリヴァプールを訪れます。彼は市内のストリートで、当時流行のパンクの髪型とファッション姿の「スキンズ」という若者グループと知り合います。彼らは毎日市内を徘徊してまわり、遊技場や行政が用意した更生施設で時間をつぶしていました。セイケが驚いたのは、このような厳しい経済状況に陥っているにもかかわらず、彼らが底抜けに明るかったことでした。彼はその中の二人の男女に興味を持ち、数日間行動を共にして撮影を敢行。リヴァプールの若者たちの青春の光と影を表現した本作が生まれました。彼らがセイケをコミュニティーに受け入れた理由は不明です。彼は、たぶん自分が外国人だったからだろう、と分析しています。

「スキンズ」の若者は、一般市民社会から離脱して生きていることにプライドを持っていました。それは社会の常識を疑い、自らで考え、自分らしさを追求して生きるという、当時流行のパンクの精神に繋がります。経済的余裕がなくとも明るいのは、自分を信じて生きているからであり、同じ考えの仲間がいて、居場所があったからでしょう。セイケは、経済的には裕福ですがムラ社会の息苦しさの中で暗い表情をしていた当時の日本の若者との違いに驚かされたそうです。21世紀に生きる若者は、社会構造が変化したことで、当時のような息苦しいコミュニティーからは自由になりました。しかし社会との関わりが希薄になり、不安になっているのも事実でしょう。本作は生きるためのメッセージを現在の日本の若者にも語っています。それは周りからの承認を過度に求めるのではなく、80年代のリヴァプールの若者のように、少しばかり個として強くなり、自分を信じて生きることが必要だということです。

1981年はセイケにとってもキャリア上重要な時期にあたります。ちょうどアーティストとしてのデビュー作「ポートレート・オブ・ゾイ」に取り組む直前で、自らの作品スタイル構築を模索していました。リヴァプールで出会った若者たちの生きる姿勢は、セイケの撮影姿勢にも影響を与えたと思われます。また展示作の中には、その後のモノクロームの抽象美を追求する作品スタイルへの展開を予感させる作品も数多くみられます。本展では、トミオ・セイケの世界初公開のデビュー作約20点が展示されます。全作品がデジタル・アーカイバル・プリントとなります。

ぜひご高覧いただくとともに、貴媒体においてのご紹介をよろしくお願い申し上げます。

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan
TEL : 03-3714-0552 FAX: 03-3714-2571 E-mail: info@artphoto-site.com

(...2/2)

トミオ・セイケ・ギャラリー・ツアー開催

9月10日(土) 午後2時～(約40分程度を予定しています)

アーティストとギャラリストが展示作品や制作背景などについて展示会場内で解説します。

参加無料 予約不要

約20名様程度を予定

(来場者が多い場合は入場制限もあります。あらかじめご了承ください)

トミオ・セイケ・プロフィール

トミオ・セイケは1943年東京生まれ。欧米の主要アート・ギャラリーのハミルトンズ(ロンドン)などと契約し写真展を定期的に世界中で開催している数少ない日本人作家です。

会社員を3年経験後、1970年に日本写真学園を卒業しています。アシスタントを経験後、1975年からフリーランス写真家、その後イギリスに渡り1987年以降は東京とブライトンに居を構えています。現在は写真展、写真集を通しての作家活動を中心に行っています。

1982～1987年に取り組んだ「Portrait of Zoe」シリーズで作家として注目されます。ロンドンのフォトグラファーズ・ギャラリーで初公開されて以降、ハミルトンズ(ロンドン)、ウェストン・ギャラリー(カーメル)、ツァイト・フォトサロン(日本橋)、コウジ・オグラ・ギャラリー(名古屋)、ギャラリーf5.6(ミュンヘン)など世界中で個展が開催されています。

その後、「Paris」1992年、「Waterscapes」2003年、「Glynde Forge」2006年、を相次いで発表し作家の地位を確立させます。欧米写真の伝統を踏まえた上に日本文化のエッセンスも感じさせる優れた作家性、卓越した撮影テクニック、自らがプリントする高い完成度の銀塩写真で世界中のコレクターを魅了し続けています。またほとんどの作品がライカで撮影されていることからカメラファンからも熱烈な支持を得ています。

2011年秋にはデジタル作品による「Overlook」をハミルトンズ(ロンドン)で開催し、アート写真の新しい可能性にも挑戦しています。

作品は、ヒューストン美術館、サンタバーバラ美術館、ヨーロッパ写真美術館、フランス国立図書館、ラザール・ナショナルバンク、エルトン・ジョン・コレクション、エルメス財団パーマネントコレクション等に収蔵されています。

以上

・お問い合わせ先 ブリッツ・ギャラリー <http://www.blitz-gallery.com> TEL 03-3714-0552
写真展の情報・画像はウェブサイト http://www.artphoto-site.com/inf_press.html でご覧いただけます。